

東野議員。

○2番（東野恭行君）

ことしの8月1日の新潟日報の記事の中で、燕市の取り組みが挙げられております。燕市は、クラウドファンディング型のふるさと納税を活用し、老朽化したスポーツ施設の改修費に充てる事業を行いました。約3年間で30億円を目標とする事業でございます。内容を見ますと、既に目標額の10億円を開始しており、8月中旬にも目標額に達成するという事案もあります。こういった取り組みもありますので、情報を共有しながら前に進めていく必要があると考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

確かに燕市の事例を挙げていただきましたけども、スポーツ整備に、そのクラウドファンディングという手法をもって財源を確保するというのも1つの方法だというふうに思っております。今後の展開を見まして、糸魚川市でもふるさと納税ということで地域活動交付金という形で始めておりますけども、いろんなこれから確かに合併特例債、起債とかも非常に厳しい時代になってまいりますので、財源確保に向けての手法として、やっぱりいろんなところを見て、どういったところを出せば皆さんから共感がいただけて、多額の寄附をいただけるのかと。そういったところは研究をしなければいけないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

私も行政だけにやってくれというふうにお願ひしとるつもりございません。みんなでどうやってやれるかというふうに考えたいと思いますので、検討をよろしくお願ひしたいと思います。市長、いかがでしょうか。

○議長（中村 実君）

時間がオーバーしてますので、質問はできません。

○2番（東野恭行君）

ありがとうございました。

○議長（中村 実君）

以上で、東野議員の質問が終わりました。

次に、田中立一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。〔15番 田中立一君登壇〕

○15番（田中立一君）

おはようございます。市民ネット21、田中立一です。

発言通告に基づいて、一般質問を行います。

1、国民文化祭と江田鎌治郎氏について。

国内最大の文化の祭典と言われる、第34回国民文化祭と第19回全国障害者芸術・文化祭が初めて新潟県で開催されている。

11月30日までの期間中、県内各地でさまざまな文化の催しが開かれ、あわせて来年のオリンピック・パラリンピックを控えていることもあり、観光、食、産業等さまざまな分野が連携し、特色あるツアーや観光ナビを提供し、JRもDC（デスティネーションキャンペーン）を行い交流人口の拡大を図っている。

糸魚川市においても文化の盛り上がりと誘客を期待するところだが、取り組み状況はどうか。

また、エリア事業で上越地域は「発酵文化の礎を築いた先人たち」をテーマに各地で事業を行うが、日本酒造界に多大な業績を残した、糸魚川出身の江田鎌治郎氏をどのように広め、知っていただくか、市の考えを伺う。

(1) 国民文化祭とその期間中に糸魚川市がかかわる事業について。

- ① 市民への機運醸成に向けた取り組みと市民の認知度をどう捉えているか。
- ② 市が主催あるいは関連する主な事業は何か。

(2) 観光、食、産業等の連携の取り組み状況はどうか。

(3) 速醸酏（そくじょうもと）を研究し、「酒聖」、「酒造界の大恩人」と言われる江田鎌治郎氏の功績をたたえ、発信する絶好の機会と思うがどうか。また、これを機会に今後に活かしていく考えはどうか。

2、動物愛護について。

(1) 犬・猫殺処分対策について。

県内の犬・猫殺処分数は近年減少傾向にあり、18年度は866匹と過去最少であったことが7月3日の日報紙に報じられた。「不妊・去勢手術の普及や新しい飼い主への譲渡が要因とみられる」とあり、関係者の取り組みが効果を上げている様子がうかがえる。

一方「多頭飼育崩壊」など課題もあり、その対策が求められる。

飼い主のマナー、不妊・去勢手術の普及、譲渡会の普及が重要であるが、その啓発と補助・支援について考えを伺う。

(2) 災害時の同行避難について。

- ① 6月18日に発生した山形県沖地震で、同行避難された市民の状況と対応について伺う。
- ② ペットの受け入れが可能な指定避難所の設置と周知はどうか。

(3) ペットの火葬について。

飼っていたペットが亡くなり、その対応に悩む方がおられる。ペットは単に犬・猫でなく家族の一員として可愛がられ、暮らしている市民も多い現在、それなりの扱いをしてあげたいという要望もあると思うがどうか。

3、糸魚川市の農業の取り組みについて。

昨年から生産調整が廃止され、直接支払交付金もなくなり、農家の経営は厳しさを増している。

18年産米は作況が不作の影響で米価は維持され、19年産米も仮渡金が増額となったが、ことしの作柄・作況次第で米価の変動もあり、また10月からの消費税増税により、農家の経営がますます

す厳しくなることが予想される。規模の大小を問わず、省力化、コストダウンへの取り組みが急務であることから、糸魚川市の現状とその対応について伺う。

(1) 農地の集積状況について。

(2) スマート農業の取り組みについて。

各地で「ドローン」やICT・IoT等を活用したスマート農業への実践が試みられており、これらを導入することによる農業の省力化、経費のコストダウンが期待されている。

糸魚川市内での取り組み状況とこれらの導入が難しい小規模農家への支援についての考えはどうか。

(3) 消費税増税による農家への影響について。

10月から消費税が増税され、インボイス制度の導入も気になるが、市内農家への影響はどうか。

以上、よろしくお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

田中議員のご質問にお答えいたします。

1番目のご質問につきましては、この後、教育長からお答えいたしますので、よろしくお願いいたします。

2番目の1点目の飼い主のマナーにつきましては、ホームページやパンフレットの配布で啓発いたしております。不妊・去勢手術につきましては、新潟県や新潟県動物愛護協会などが助成を行っており、各団体と連携をしながら制度の周知を行っております。

また、譲渡会につきましては、上越動物愛護管理センターが行っており、おしらせばんでの掲載など市も協力をさせていただいております。

2点目の1つ目につきましては、2頭の犬の同行避難があり、ペット登録カードに記載をいただいております。

2つ目につきましては、地域防災計画のペットの同行避難者を受けられる施設を記載するなど同行避難に配慮することといたしており、ペット同行での避難方法など、周知に努めてまいります。

3点目につきましては、市内の火葬事業者や市外業者による訪問火葬サービスなどがあり、それらの情報提供を現在行っております。

3番目の1点目につきましては、人・農地プランにおける中心経営体の集積率は、30年度末で39.9%となっております。

2点目につきましては、一部の農業法人においてスマート農業の導入が進められております。また、小規模農家へは機械の共同利用によるコスト削減を推進いたしてまいります。

3点目につきましては、肥料などの資材購入で増税による負担増となることから、影響があると考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

田中議員の1番目のご質問にお答えいたします。

1点目の1つ目につきましては、昨年度のプレイベントや今年度の連携事業の実施、広報紙、ウェブ媒体等でのPRにより、一定の認知度はあるものと感じております。

2つ目につきましては、特別企画展「御風と屏風のある風景」、プラハチェロカルテット、ふるさと俳句大会などであります。

2点目につきましては、～芭蕉「おくの細道」ゆかりの地 糸魚川を巡る～として、マリンドリーム能生、翡翠園の見学とふるさと俳句大会を観覧するツアーが予定されているほか、大会トラベルセンターにより、観光モデルプランが紹介されております。

3点目につきましては、広報いといがわ9月号で特集として、業績を大きく紹介したところであり、今後も機を捉え、広く周知してまいります。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

国民文化祭ですけれども、昨日、天皇、皇后両陛下がご臨席されて、盛大に開会式が行われました。能生の白山神社もその舞台で、舞楽が発表されたと聞いておりますし、また、その関係者の皆様方、大変ご苦労さまでございました。

この開会式、大変盛大に行われたことが報道されておりますけれども、市からは誰か参列というんでしょうか出席されたんでしょうか。またその様子はいかがだったんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

お答えします。

昨日の開会式には、市長、教育長、それと私と担当係長が出席しております。議員からもお話にありました能生の舞楽の輪歌の舞が行われまして、非常に糸魚川のヒスイのことにも触れていただきまして、非常によい開会式であったというふうに感じております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

市長以下、教育長、出席されたと。大変よかったかなと思います。ちょっと気になるのは、担当

課だけで、今回、来年のオリンピック・パラリンピックもあるんだから、いろんな輪を広げる中で、もう少し他の課の方も行かれたかなと思って期待したところだったんですけれども。まずまたこのことは、後で伺います。

閉会式でも小竹姉妹の津軽三味線が予定されていることで、また、そちらも楽しみでありますけれども、先ほどの答弁では、認知度があるというふうに答弁されましたけれども。

昨年、私、この国民文化祭について取り上げたときには、県の実行委員会でも知事が、認知度はまだ、いま一つという話だったわけですね。それについて市としても県の実行委員会と周知を積極的に図って、機運を高めたい。そういうような答弁がされた。今回は、市民の認知度があるというふうに伺って、ほっとしたんですけれども、市民の認知度と、イコール市民の機運が盛り上がっているというのは、イコールで考えてよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

国民文化祭の開会に当たりまして、開会50日前イベントが7月の27日に、上越市のオーレンプラザで開催されております。閉会式にも出演していただく津軽三味線の小竹姉妹がデュオ演奏を行っておりまして、文化の祭典を盛り上げていただいております。私もその場へ行かせていただきまして、盛り上がり期待を持てたというふうに感じました。

また、昨日、開会式が行われまして、テレビで放送もされておりますし、新聞にも取り上げられて、掲載されております。今後、9月15日からの日程でありますので、今後、各エリアでイベント等が開催されると、さらに盛り上がるのではないかとというふうに予想しているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

機運の盛り上がり、醸成が、関係者からさらに一般市民にも広がって、やはりこれは認知、またされなければいけません。認知、それから機運が醸成され、それから成果に結びつく。でないという意味がないとまでは言いませんけれども、せっかくの機会ですのでしっかり取り組んでいただきたい、そういうふうに思っております。そういうことで、今いろんな事業が予定されておりますけれども、市のほうの関係されております主催事業あるいは関連事業、そういったものに対する申し込みとか反応とか、そういったものは、問い合わせ状況等はいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

市の主催事業であります俳句大会、相馬御風顕彰のふるさと俳句大会ですが、非常に多くの方か

ら応募がありまして、15日の新潟日報にもふるさと俳句大会に選者としてお越しいただく夏井いつき先生の記事も載っておりましたので、その点からも非常に俳句大会の知名度は上がったものと思っておりますし、今後、逆に来場者が多くなるのではないかという心配もしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

来場者が多くなる心配ということで、大変うれしい話をいただきました。

開催期間をちょっと見たところ、昨年の大分県が、また来年の宮崎県ともに31日間、約1カ月。新潟県は77日間、2カ月半、かなり長い。これはかなり差があるわけですね。どういういきさつでこうなったかは、もしご存じだったら教えていただきたいんですけども。長いということは、県内の文化団体がより多く出演して発表する機会がふえるということにもつながって、それはプラスでいいと思いますけども。事業が長くなっていくと中心的な事業を分散したりだとか、あるいは人口の多い都市、あるいはかえって中越に集中しないか、その辺の均衡についてはどのように考えていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

期間の長さにつきましては、議員おっしゃった昨年の大分の大会につきましては、31日ではなく、51日間だというふうに認識しておるところでございます。また、新潟県の場合は長いという理由については、ちょっと私は認識していないところであります。

ただ、会期が長いということに関しましては、さまざまな講演等、イベント等が重ならずに行えるという点では、よいのではないかなというふうに思っているところです。

他地域に集中するというところがございますけども、この会期内に糸魚川市でも20近くのイベント、事業等を行う予定にしておりますので、上越、妙高、糸魚川エリアでも十分期間内に事業を集中して、いろんな文化・芸術の面で実施できるものと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

それから、障害者芸術・文化事業についてでありますけれども、昨年の答弁では、福祉施設と連携した取り組みや各事業に障害者の皆さんが参加しやすい環境を整えていく準備を進めるとありました。何かこの間において具体的な取り組み、あるいは今回の事業の中で、糸魚川市がかかわっているものがあつたら教えていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

川合福祉事務所長。〔福祉事務所長 川合三喜八君登壇〕

○福祉事務所長（川合三喜八君）

お答えいたします。

障害者につきましては、毎年、バタバタまつり、あるいはささゆりフェスタといった行事を行っております。そういった中で、今回の国民文化祭、あるいは障害者の芸術ということにつきましても周知をさせていただいております。なかなか市内にも障害者で油絵とかいろんな切り絵とか、やられる方がいらっしゃるんですが、なかなか皆さんにそういったものをごらんいただく機会がございませんので、できましたら一般市民の方にも、そういった方が一生懸命頑張ってるということで、何か工夫してごらんいただけるような機会を設けたいと考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

何らかの、もう少し昨年の答弁から期待したところがあって、こういったことをするに当たって、何が課題になって何をクリアしなきゃいけないのかというものも、もうちょっと明確になってくるいい機会じゃないかなと思ったんですよね。これだけ全県で取り組んでいる事業でありますし、こういったことを機に、他の自治体の取り組みも参考になるものがあるかもしれません。市内にはそういう技術を持っておられる、あるいは趣味を持っておられるという話なんですけれども、やはり社会に出やすいようにするのも大事じゃないかなと思いますし、ぜひもう一歩進めていただけたらなど期待をしておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

先ほどの期間のことについて、私の認識も足らなかったのはあるんですけども20近くされると。また、期間が非常に長いということで、この期間中というのは、従来でも非常に担当課は忙しいことは承知しておるんですけども、これについては実行委員会の組織があるわけですよね。従来の、あるいは通常の事業プラスいろんなことをされるということで、逆に今度は、スタッフの体制とか実行委員の体制というのはどうなっているのかなど。庁内でのかかわり、実行委員会のかかわっている課というのはどうなっているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

お答えします。

実行委員のメンバーにつきましては、副市長が会長となっております、文化協会の会長が実行委員長ということになっております。また、観光協会、商工会議所等の方も実行委員に入っているところがございます。

職員の体制につきましても、非常に長い期間で事業が多数行われるということで、文化振興課としましても今いるメンバーで対応しておるわけですが、上越市、妙高市の皆様とも主催事業でかかわっておりますので、連携して上越、妙高、糸魚川エリアの事業を盛り上げていきたいというふう

に考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

ということは、庁内での他の課との加わっているかどうかということも聞いたんですけども、実行委員の中には、副市長が入っておられるけれども他の課の人たちは実行委員には入っていないというふうに理解してよろしいわけですね。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

実行委員のメンバーには、他の課の職員は入っておりませんが、事務局として福祉事務所と商工観光課からも入っていただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

この事業を通じて、全県的に文化を通じてさらに交流の拡大もやっていこうと。また来年のオリンピックやパラリンピックにつなげていこうという取り組みをよく耳にし、目にするわけですし、非常に重要なことかと思しますので、庁内での連携をしっかりとお願いしたいなと思えます。次の観光、食、産業との連携と絡んでくるわけですが、やはりこういった面においても、その辺のつながりが大事じゃないかなと。始まったばかりでもありますので、その辺の取り組みも、またさらに強硬にしてもらいたいと思えます。

次に、江田鎌治郎氏についてでありますけども、このことについて私も聞いたといひましようか初めて知ったのは、1年前の一般質問で国民文化祭を取り上げたとき、初めて教育次長、当時、課長だったわけですが、から聞きまして、そういう方がおられるんだというふうに思ったわけですが、非常に上越出身の坂口謹一郎博士は有名なんですけども、その方にして酒造界の神様と彼のことを評しているほどというふうに言われるわけであります。

先ほど答弁で、確かに9月の広報に大きく取り上げていただいて、市民にもかなり広まったんじゃないかなと思うんですけども、その辺の反応といひましようか、いかがだったんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

江田鎌治郎氏につきましては、私も文化振興課長になるまで名前を存じ上げておりませんでした。庁内でも同じような状況でありましたが、今回、広報紙に掲載させていただきまして、また市内の、例えばロータリークラブさんでの講話ですとか、五醸の会のメンバーの皆様が集まる会合等で広報

の内容をお配りすることでPRに努めております。

私と同様、知らなかったという方が多数おられると思いますので、この機会を利用して江田鎌治郎の功績をさらに広めていけたらなというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

現在でも速醸酏の製法を知ってる人が、使ってる人が国内の蔵元の9割以上だというふうに聞いております。市内には5つの酒蔵、県内には90ほど、全国で1,200以上あると言われてるわけですから、非常に影響が大きいんじゃないかなと思うわけですし、今、今後の取り組みも少し伺ったんですけども、江田氏の功績を記した本、あるいはご自身の著書とか、そういう資料関係、あるいはお住まいや足跡、あるいはゆかりの方というものは市内に残されてるものがあるものなんでしょうか。もしまたあるとすれば、どのように保存されているのかおわかりでしたらお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

お答えします。

江田鎌治郎氏につきまして、なかなか資料が残っていないというのが実情です。広報に掲載させていただいた写真につきましても、加賀の井さんで貯蔵しておりました写真なんですけども、この大火によりまして、その写真のもともどうなったかちょっとわからない状況です。たまたま糸魚川市史編さんの折に写真をスキャナーさせていただいて残っていたものをここに掲載させていただいたということで、これからどのような関係者がいらっしゃるか今ちょっと調べておるところでございますし、残っているもの、江田氏の関係するものが残ってるかどうか、これから調査をしなければならぬというふうに思っているところです。糸魚川市内のお寺の名前を、ちょっと失念してしまいました。関係するお寺があるということですので、そちらのほうでちょっと聞き取り等もしてみたいなというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

こういう偉大な事業をされた方ですので、こういった機会に広めていただいて、また活性化につながることを期待します。

もう一点、この国民文化祭で、上越では公式のガイドブック「巡遊浪漫」が作成したということが報道されていましたが、大変いいことかなと。ホームページでも見ることでございまして、し

っかりとさまざまなことを書かれて、あるいはスマホでも使えるようになっておりますけれども、こういう取り組みというのはいいんじゃないかなと思うんですが、糸魚川では、こういう糸魚川市内での事業に関する案内のガイド等を作成の予定というのはあるものなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

糸魚川市で糸魚川市独自のものをとすることは、考えておりませんでした。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

おとついに始まったばかりで幸いにも期間が長いので、またできる取り組みをお願いしたいと思います。せっかくの機会ですので、一過性に終わることなく多くの人に来ていただいて、多くの人が感動し、そしてまた、地域の振興につながるよう取り組みのほうをよろしくお願いしたいと思います。

次、2番に入らせていただきます。

動物愛護についてでありますけれども、多頭飼育の崩壊でありますけれども、市内でこのことについての現状はどうなんでしょうか、主に猫になるかと思うんですけれども。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えいたします。

今おっしゃいましたとおり、多頭飼育につきましては、猫での苦情、お問い合わせが大半でございます。年間数件あるかと思えます。こちらのほうのお問い合わせがありましたら、新潟県のほうとともに関係のお宅ですとか関係する周辺を見させていただいて、当該する飼い主、もしくは周辺の方に、指導もしくはマナーの徹底をお願いしているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

やはり飼い主のマナーが、まず大事かなと思うわけですが、その飼い主のマナーについては、じゃあどういったものが必要か、どのようにまた指導をされているか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

通常の飼育のマナーというわけではなくて多頭飼育のマナーといたしましては、やはり今、猫というのは室内飼育というのがお願いするということが多いかと思えます。室内飼育の面と、あと不妊・去勢というところもマナーの1点かなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

確かにそのとおりかと思えます。マナーと一言に言ってもたくさんあるかと思うんですけれども、大抵の場合は飼い主の責に帰するわけで、それをまたご存じないというのが、認識がないのが問題かなと思うわけですね。今言われたように多頭飼育もそうですけれども、飼い主のマナー、市のホームページを見ると、このことについてしっかり書かれているんですけれども、今言われた不妊や去勢が見当たらない。マイクロチップは見当たらないんですけれども、こういったことも今、課長が言われるぐらいですから、しっかりホームページ、あるいはいろんなパンフの中にも周知していく必要があるんじゃないかと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

ホームページに関しましては、また帰ってホームページを確認させていただきますが、不妊・去勢につきましては、県の飼い主のいない猫の不妊・去勢手術の補助事業につきましては、記載があると思いますが、それ以外についてはないかもしれません。マイクロチップの件も含めて改善させていただきたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

あとこれはマナーになるのか、最低限の義務になるんですけれども、狂犬病の予防注射、金曜日にも質問が保坂議員からありましたけれども、このことの答弁では、登録されている犬に、来られない方が何%かおられると。その方には文書を送るという答弁だったかと思うんですけれども、その文書を送った後、どうされているのか。やはりこれは義務になるんじゃないかと思うので、文書を送った後、全部また予防注射を受けに来ているのかどうか。あるいはその対応はどうなっているか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

金曜日の一般質問でもありましたが、現在1,520頭の登録頭数、犬でありますけれども1,520頭の頭数が登録してありまして、予防接種につきましては1,376頭、約91%になっ

ております。こちら金曜日にも答弁させていただきましたが、注射の確認できない犬に関しましては、文書にて周知をさせていただいております。そうしますと注射ができない理由、例えば高齢による犬ですとか病気をしているですとか、そういったものに際して注射ができないということで猶予証明というものを獣医のほうからもらうということをお願いしておりますので、それも確認しておりますけれども、また提出していただけない場合などには電話によって確認をすることもございます。

また、最近の傾向としまして集団での予防接種に来られる方がどんどん減っております。独自で獣医のところへ行って注射する方がふえておりますので、そういった方も含めてご周知をさせていただいてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

猶予をもらえればいいんですけれども、猶予がない方がおられた場合には、ちょっと困ったものですね。しっかり義務だと、たしか法律的にもこれはあることで、この後の同行避難等においても非常に大事な要素になってくる。それから、予防注射ばかりじゃなくてワクチン等の病気の予防もあるわけですよ。その辺が非常に大事じゃないかなと思うわけです。

それともう一点は、登録登録と言われるんですけれども、じゃあ登録されていないものはいるのかどうか、その辺の把握はどうなっているのか、それはいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

今おっしゃいますとおり、登録をされていない犬というのもいる可能性があります。法律で登録が義務づけされておりますので、本来、飼い主のほうで責任を持って登録していただくべきというように考えておりますが、残念ながら登録されていない犬に関しましては、把握できない現状があります。各種広報等で、またそういった面もお知らせしたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

それから、去勢・不妊手術の現状でありますけれども、大事なことなんですがお金もかかるということがあって、なかなか難しいところもあるんですが、非常に猫なんかは繁殖のスピードが速い、それがために先ほど多頭飼育崩壊にもつながっていくわけなんです。やるに当たっては、特に飼い主がいない猫についてなんですけれども、補助なんかもあるということで、その辺の周知、あるいはまた利用状況、そういったものは把握されてますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

不妊・去勢手術につきましては、猫が中心となります。そちらの方につきましては、新潟県が実施しているもの、動物愛護協会が実施しているもの、上越動物保護管理センターが、すみません、動物保護協会が実施しているものの中で、二、三種類あるんですけども、それらのつくりの中につきまして、代表される新潟県がやっております飼い主のいない猫の不妊・去勢手術の補助件数について説明いたします。

昨年度、糸魚川管内でありますと7件の12頭、本年度入りましてからは、2件で2頭がこの補助を受けているというふうに聞いております。これらにつきましてもホームページ・広報等で周知をさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

大事なことですし、室内で飼っている分にはかなりその辺は軽減される場所はあるかもしれませんが、問題は野良猫だと思うんですね。このことについては、TNR活動というのがあるんですが、これはどういう活動か、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

議員今おっしゃったTNR活動でしょうか、大変申しわけございません、承知しておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

TNRのTがトラップ、捕獲して、ニューター、手術をして、R、リターン、もとに戻すと。この頭文字をとってTNRと。私もこのことを、TNRは知っても、どういう文字になるかというのは、新聞を見て知ったんですけども。

先日、市内でこのTNR活動をこの地域でモデル地域づくりを目指している市内のボランティア団体のことが新聞紙上に報道されていたことによっても知りました。今、不妊・去勢に必要な手術費用をクラウドファンディングで募って、目標を上回る金額が集まっているということで、新潟の獣医師から出張手術をしていただいていると。先日の新聞では、これまで3回行っているというふうにありました。不幸な猫を減らしたいという思いで活動される団体と、この獣医師の取り組みには、頭が下がる思いでありますけども、そういった方がこの市内にいるのがうれしいことであります。糸魚川市としても、こういった団体の活動、そういったものを把握、あるいは理解、協力、こういったことについてはどのように考えていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

今ほどおっしゃいました新聞記事の中に書いてあったことを今思い出しました。TNR活動、承知いたしました。そちらのほうの新聞記事ですとか、あとホームページでも活動されてることは十分承知しておりますので、今後、市内での把握ですとか情報共有に、また努めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

そういうモデル地域を目指しているということで、地域にとっても非常にいいことじゃないかなと。私は新聞報道見る限りで、まだその団体と接触してるわけではないのであれなんですけど、いいところはやはり連携していく必要があるんじゃないかなと、これ見て思ったところであります。

もう一個、譲渡会、譲渡会について各地で行っているんですけども、糸魚川市での譲渡会は非常に数が少ないし、場所もちよっとわからないところでやっている。場所を言うと保健所の中なんですけどもね。やってるわけで、もっとわかりやすい場所や回数をふやせないかという声も聞かれるんですけど、その辺の把握と今後何か対応を考えておられますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

譲渡会につきましては、本年6月8日、糸魚川保健所で開催をされており、2頭の猫が譲渡されたというふうに資料載っております。それでこの後、10月19日、2回目、本年最後になりますけど、2回目の譲渡会が予定されているということでございますので、そちらのほうにつきまして、また、わかりやすい周知をさせていただきたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

やはり猫を飼いたいという方は、非常に多くおられて、それはいわゆるマッチングができるのがこういった会であります。ボランティアの人たちが中心に一生懸命頑張っておられて、これの成果が殺処分数の減少につながっていると、非常に大きな要素であるというふうに聞いているわけですし、場所は、もしもっといいところはあるのかどうかという話なんですけれども、その辺のこともちよっとこれから一緒になって考えてあげたらいかがでしょうか。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

猫の譲渡会に関しましては、保健所の開催ということですので、新潟県ともちょっと、今いただいたお話等をご伝達する中で、また協議させていただきたいというふうに考えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

それから、同行避難でありますけれども、2頭の犬が、犬とおっしゃいましたね、犬が同行避難された。恐らくじゃあ1人の方が2頭連れてこられたのかな。その辺の事実と、それから、登録カードに記載するというふうに先日の質問の回答にもあったんですけども、登録カードというのは、どのようなものを書かれているものなのか、いかがでしょうか。私、事前にこれをいただいたんですけども、これで間違いないのかどうか。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えします。

先日の6月の18日の避難に関しましては、犬が2頭ですが、お二人の方、2軒の方というふうにご理解いただければと思います。

ペットの同行避難の確認表につきましては、ペットは犬だけではございませんので、動物の種類ですとか性別、年齢、持病、ワクチン等の接種状況、ゲージを持ってこられたか、ペットフードを持っているのかというようなことを確認させていただき用紙になっておりますので、議員が今、手元にお持ちのものと同じものと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

同じものということになりますと、これまあ細かく丁寧になんですけども、肝心の飼い主の名前はありますけれども、連絡先がこの中には見当たらない。ちょっとあら探してみたいになって余りあれなんですけども、こういうのも書いていただくのはいいですし、大事なことなんだけど、やはり改善点が幾つかあるように見受けますが、その辺実際やってみて改善点というのを、あるいは保健所との連携になってるんですけどもされて、今後どのようにしていきたいというもの、もしありましたらお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

今、おっしゃったように今回の確認表の中には、飼い主の連絡電話番号等の記載をする場所がご

ございません。これらの経緯について、ちょっと私も知らないものですから、こちらのほうの経緯を確認させていただくとともに、今おっしゃいますようなことは重要なことだと思いますので、この用紙につきましては、県と共同の作業になっておりますので、県とともに情報修正し、確認できるものについては新たにつくっていきたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

気になったのは、ゲージだとかそういう物資を要・不要と、要とあった場合、全部対応できるのかどうかとか、ワクチンのことあるわけだけでも、これだって受け入れができるかどうかとか、いろんなことを逆に心配になったり、あるいは妨げになったりするものがあるんじゃないかなと。県のほう、あるいは担当するほかの関係機関と、やはりそのときになってからじゃあ遅いと思いますので、せっかくこれつくったので、改善をしていったらいいんじゃないかなと思います。

同行避難はやはり、こういうのをやって一つ一つが明らかになっていくわけで、先日の質問にもあったんですけども、私の3月の質問のときにも県から話があるからやりたいという話があって、6月にやるかと思ったけど、やらなかったと。やはり訓練の中にも取り入れる必要があるのかなと思います。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

今おっしゃいますようにペットの同行避難訓練というのは、非常に重要なものだと思っております。また、それに訓練に取り組むためにも、事前の準備というのいろいろとあるかと思っておりますので、そういったことも含めて、これから取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

最後、ペットの火葬はあれなんですけれども、例えば魚沼市や南魚沼市、あるいは上越市は柿崎の斎場なんかをやってるわけなんですけれども、そういった他の自治体でもそういったのやっているとあります。また、やればやったでいろんな課題があるようなんですが、できれば要望が結構ありますので、火葬について検討していただきたいと思います。これも要望させていただいて、次に、農業の取り組みのほうに入らせていただきます。

農地の集積率39.9%、先日10日の新潟日報では33.2%で、低いほうから2番目だったんですが、かなり開きがあるんですが、これ1年間にこれだけ進んだということなんでしょうか。この違いは何なんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

お答えします。

今ほどの県の示した33.2%という数字と、私ども市長のほうから答弁させていただきました39.9%ということであります。私どものほうで今回答弁させていただいたものが、人・農地プランの中心形態による集積率というものであります。

もう一点の県のほうで発表されたものが、担い手による集積率ということであります。こちらにつきましても、分母が違ってくるということで、もともとの対象面積の捉え方が違うということでありまして、上がったというわけではないということであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

よくわかりました。確かに私、ホームページをプリントして、これ見ると人・農地プランのものでして、それに準じてるのかなと。

それから、やはり低いわけですが、いずれにしても県から2番目なのか、2番目に低いのか、低いほうには間違いのないわけであります。この辺の現状をどのように分析されているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

低い理由につきましては、さまざまな理由がございますけれども、大きな要因としましては、やはり担い手の少ない地域であると、やはり集積率は低くなる傾向にあるということであります。担い手自身が少ないということになりますと、やはり基盤整備事業であったり、耕作条件が厳しいところを少しずつ誰も耕作しなくなっていくというような状況にもあります。そのようなことから、なかなか耕作、集積率が進まないということだと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

その一方で、借り手の申し込みの取り下げ状況というのも結構ありますが、この申し込みの取り下げた理由というのは、大体どういったものなのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

今ほどのご質問につきましては、いわゆる農地中間管理事業における借り受けということでもよろしいでしょうか。

こちらにつきましては、基本的には制度上、多くの方々がまずもってそちらに登録をしないと、出し手からの農地を受けられないという事情がございます。したがって、現在でいうと127名の方が登録をされているわけですが、この方々が取り下げるという状況であるとすれば、本人の死亡、また離農というふうなことで考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

やはりその辺が、今後の糸魚川の農業に大きな課題じゃないかなと思うわけであります。この農地の集積が始まって5年たって、今こういう状況と。今後の見通しとしては、どのように思っておられますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

当市の課題でもありますように担い手の方々の高齢化、また労働力不足等もありまして、やはり耕作放棄地、遊休農地というのはふえていくんだろうというふうには考えております。こういった点を解消するために、基盤整備であったりスマート農業というもことで進めていくということですが、いずれにしましても大きな枠の中では、やはりどうしても現在の糸魚川市では少しずつ担い手の数は減っていく。それに伴って集積率を伸ばしたいというところでもありますけれども、先ほど申し上げたとおり、耕作できない、しづらいという農地は、どうしても今後残ってまいりますので、そういったところをどのようにしていくか、これが今、現在進めている人・農地プランの実質化というところがございます。こちらの中でしっかりと地域の皆様方から徹底的に話をしろというようなことで国からもありまして、私どものほうでも、これから2カ年にわたりまして、地域に入りましてそういった現状と課題を含めて、地域の方々と話をしていく、また、話をさせていただいていくというような形で考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

それにしてもホームページで見た人・農地プランの今14をおっしゃいましたけれども、中には10%台、11%、それから18%、非常に10%台が幾つか見える地域があります。地域を見ると、それなりの理由がありそうにも感ずるわけなんですけれども、非常に今後、耕作放棄地がこういったところからふえていくんじゃないかなと思うわけであります。ふやしていく、集積を進めていく限度があるなら、また、小規模経営、あるいは家族経営というものをどのように今後維持していくかということも考えなきゃいけないんじゃないかなと。そのための支援とかどうしたらいいかというのを考えなきゃいけないんじゃないかなと。それが今回聞きたいところなんですけれども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

申しわけございません、もう一度、質問を教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

集積率が、私は上がらないのは、1つは原因は中山間地農業がやはりそういった形にあらわれとるんだらうと思っております。それはなぜかという、やはり大きく集積するのはコスト、要するに勾配、傾斜地の農業というのは、やはり水路の管理だとか農道の管理とかという形の中においてはコストがかかってくる部分がございます。そういう中では大きくは余りならないのではないか。また逆に、集積が上がらないのは、まだそういう頑張っておる農家がおられるからいいんだという部分もあるんだらうと思っております。

しかし、そういったふうに道路にしる水路にしる、やはり管理にかかるということになってくると、今ご指摘のように家族農業だとか小規模農業という方もやっぱりないと、例えば大きい面積を持つとるのが1人であっても、農地や水路は管理できなくなるわけでありまして。頭数がやっぱり数多く必要な部分がございますので、そういった支援をやはり中山間地農業や山間地農業をどうしていけばいいかという中で、捉えていかなくちやいけないんだらうと思っておる次第でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

本当にそのとおりで、頑張っている農家を支えていく、これからの施策が必要じゃないかなと。また、そういったところでも、やりたいという人が出てくることを期待するわけでありまして。そのうちの1つがいかにかコストダウン、省力化を進める中で、スマート農業が取り入れられるかどうか。そういったことじゃないかと思うんですけども、今ほどの答弁ですと、スマート農業に入りますが、一部されてると言うんですが、どういったところでそうやって、差し支えなければ法人、どれぐらいの数がされているのか、どういった内容をされているのかお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

お答えいたします。

現在、私どものほうで把握しておりますのは、4つの法人であります。1つは、いわゆるドローンと言われるものが薬剤散布用であります、これが2台、2カ所ということでありまして。また、

田植え機のアシスト機能つきということであったり、またGPS付田植え機ということでもあります。こちらにつきましては、要は人が操作しなくても基本的に直進をするというような機能を持っているということでもあります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

これは恐らく法人ですので、大規模に集積されたところでされているということで、先ほどから言ってます中山間地では、1軒ではなかなか難しいけれども、共同利用ができる、スマート農業でそれが取り入れられるかどうか、その辺は可能性はいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

スマート農業の取り組みにつきましては、十分可能性があるというふうに考えております。しかしながら、スマート農業の今ほどの農業機械等を効率よく使いこなすには、やはり基盤整備であったりという、まずもっての整備が必要であろうというふうには考えております。

あと議員のほうから言われましたとおり、共同利用・共同購入をするという段階では、なかなかまだスマート農業の機械そのものも高額なものが多いということでもあります。そういったものが今始まっているわけですが、今の基盤整備を含めてしっかりと見きわめていく必要があるかというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

ハード面もそうですが、例えばデータの集積だとか、あるいは操縦技術、あるいは資格、それを使いこなせるICT、IoTを使いこなせる能力・技術、そういったものを今頑張ってる農家の人たちは、恐らく生産に手いっぱいなんだけれども、そういったものを何らかの支援でやっていける可能性があるのではないかなと思うんですけども、その辺の考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

今ほど議員のほうから言われましたそういったドローンの操作機能の技術向上、資格等々につきましては、現在、県のほうでも農業大学校等で講習等で取り組んでおります。

また、機械につきましても、主には県のほうで助成をしていただいとるというような状況であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

大規模のところでは、どんどん関心を持って進めていってもらいたいし、またその辺のことも、国のほうもかなり強力に進めているようであります。やはり中山間地の小規模な農家、家族経営においても関心を持っての方がいるかと思しますので、そういった方のまた相談にも乗っていただきたいと思います。

次に、軽減税率の導入による影響なんですけれども、消費税の増税の影響なんですけどインボイス制度、このインボイス制度が導入されることによってさまざまな課題が浮かび上がって、農家の場合はどうなるのかということであります。

まず、基本的なことなんですけれども、こういう本を見たところ、免税事業者は取引から除外される可能性がある。その理由としてインボイス方式では、原則、適格請求書発行事業者からの仕入れしか、仕入税額控除の対象とならない。小規模事業者で、直接販売している農家の方は、ほとんど免税事業者でないかなど。どうなるのだろうと。その辺の説明が余りマスコミ等でも見られないんですが、どのようにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

お答えします。

今ほど議員の言われますとおり、農業者の多くの方々が法人、売り上げで1,000万円に満たない方々につきましては、免税事業者ということになります。

ただ、今後、軽減税率が導入されることによって、それを納品した、納入するということになりますけども、そういったときには、受けた、仕入れたほうが、軽減税率が違う税額で仕入れたということを証明するためには、仕入れ先のほうからしっかりとインボイスという書類を出してもらわなきゃいけないということになります。

したがいまして、農業者の方々ほとんど免税事業者の方が多いというふうに思っておりますけども、それを仕入れ先から出せと言われたときには、課税事業者の登録が必要だというふうに言われております。要は、税務署のほうに自分は課税事業者であると登録をしないとイケないということになります。そちらのほうの手間を、いわゆる課税事業者ということになりますと、自分で消費税の軽減、仕入れと売り上げの計算をしなければいけないというところも出てまいりますので、そういったところでは、農業者の方々の中ではしっかりと確かに把握されているのかというところは、私のほうでは議員のおっしゃるとおり心配なところではございます。

ただ、免税事業者の方々が1,000万円までいくというような状況の中で、しっかりそこら辺の説明含めまして、今農協とも少し情報を共有しようございますので、そういったところをまた話をしていきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

直売所、あるいは食堂等、飲食店、レストラン、それから道の駅等々におさめて、直接農家からおさめているところがあるかと思います。私の周りにも見受けますので、たくさんおられるんじゃないかなど。その人たちにみんな適格請求書、仕入税額控除なるようにやれっていったら、かなり嫌がるんじゃないかなど。あるいはできないんじゃないかなど。ほとんどが自分でつくり、自分で帳面してやってる中で、また高齢化の中で、これが心配しとるのは、やはり離農につながればいけないと。やはりその辺のところを今から、猶予期間が4年間、実際、控除を含めて6年の間にしっかりと対応していかなければいけない。なので、今この時期において今取り上げさせてもらいました。非常に大事なことですし、JA初め関係機関についても非常に取り組んでもらいたい案件かと思っています。この猶予期間の間にどれだけのことができるのか、非常に大切なんですけれども、ほとんどこのことについて情報が今のところありません。今後どのようにされていくのか、もう一回、その辺のところをしっかりと伺っておきたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

議員のご指摘のとおり、そもそも軽減税率というものそのものが、十分に農業者の方々に理解をされているのかというところがあって、さらにインボイスというようなところがございます。こういったところをしっかりと、先ほど申し上げましたけれども、お知らせをしていかなきゃいけないということでもあります。そもそもJAが大きな農業者の組合員としての協同組合になりますけれども、こちらのほうと今現在、情報交換をしております。研究中というお話をいただいておりますので、そういった点含めまして、今お話の税務署のほうでは、そういった登録制度がもう2年ほどで、また今度は受付が始まるということもございますので、そういったところを見据えながら、農業者の方々への対応についてしっかりと協議をして、また必要なことは実施をしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

よろしくお願ひします。JAにしても食彩館という立派な直売所がありますし、しっかりとその辺のところを取り組んで離農することがないよう、糸魚川産のお米はおいしいと評価が高いし、人気があるわけですし、1人でも頑張ってる農家を助けてやっていてもらいたいなと思うことを要望して、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（中村 実君）

以上で、田中議員の質問が終わりました。

昼食時限のため、13時まで休憩といたします。